

阿南 ぶらりまち紀行 ～地域の輝き～

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!

第94回



地域を象徴する季節があるとすれば、深瀬町は立夏の時期がそうだろう。新緑みなぎる那賀川に300匹のこいのぼりが群泳し、午尾の滝が勢いを増す。沿道には4千本のチューリップが咲き誇る。そんな光景が生まれ、守られ続けているのは、住民たちの思いと活動によってである。

10年ほど前になる。国が「那賀川築堤事業」を推進し、地元を受け皿として「深瀬未来の会」が結成された。水害からまちを守ることは住民にとつて悲願でもあった。総代の松崎孝徳さん（67歳）は、「100年に一度のプロジェクを円滑に進めたい」と結束を呼び掛けた。

取り組んだのが、誰でもが気軽に参加できる親睦旅行。毎回30人近くが参加する盛況ぶり。旅先で胸襟を開き、ふるさと談議に花を咲かせている。集会所では、七夕飾りやクリスマスイルミネーションで季節を楽しむ。去年から、午尾の滝で知られる八幡神社で五月人形の企画展も始めた。鯉まつりに一興を投げ、景勝地のPRにも一役買っている。



思い立ったらすぐ実行するのが信条の松崎さん。「いいなと思えばどんどん行動に移すことが大切」と張り切っている。

「地域は少子高齢化が進み、このままでは衰退の一途をたどるだけ。活性化の特効薬があるというわけではありませんが、住民同士が親睦を深めることで会話が弾み、アイデアも生まれます。活動にはみんな協力的。地域の良さを生かした取組で、活路を見いだしていきたい」

鯉まつりを明日に控え、深瀬手芸クラブの皆さんが、数カ月かけて作った自慢のミニこいのぼりを沿道に飾り付けた。はじける笑顔にレンズを向けると、「きれいに写してよ〜」「モデル料高いで〜」と返ってきた。そんな明るいやり取りに神様もほほ笑んだ。まつり当日の上空に、七色に輝く光帯が出現したのだ。偶然なのかそれとも…。まちの将来が明るいことを予感させる。

見上げればこいのぼり。風に向かっていくときが一番元気だ。逆境を乗り越えようとする深瀬の人々の姿と重なる。

